

令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日)



学校 群馬育英学園
法人

GUNMA IKUEI EDUCATIONAL INSTITUTION

I 法人の概要

1. 法人名称・理事長名・所在地

- (1) 法人名称 学校法人 群馬育英学園
- (2) 理事長名 中村 義寛
- (3) 所在地 群馬県高崎市京目町1656番地1

2. 建学の精神等

育英大学及び育英短期大学においては、I Cの道義標準に基づき、「公正」、「純真」、「奉仕」、「友愛」を建学の精神とし、その道德理念を培い、常に国際的視野に立って、世界平和と社会福祉に貢献できる人材の育成を図ることを教育の使命とする。

前橋育英高等学校においては、「正直・純潔・無私・愛」の道義標準に基づく道德理念を培い、知育・徳育・体育を以て人格の陶冶と錬成をはかり、つねに国際的視野に立って、世界平和と社会の福祉に貢献できる人材の育成を期する。

〈育英大学・育英短期大学〉

◎教育の理念・目標

育英大学では、学術の中心として広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を育成するとともに、豊かな人間性と深い専門性をもつ人材を養成し、教育研究を通して社会に貢献する。教育学部では、幅広い教養基盤に支えられた主体的な判断力と行動力を有し、理論と実践に基づいて応用的に教育活動を展開できる人材の養成を目指す。

育英短期大学では、学生と教職員の信頼関係の構築を基礎とし、両者が一体となって創り上げるものを教育の理念としている。教育目標としては、「学生中心の教育を目指すこと」とし、保育学科においては、優れた幼児教育者の育成を目指し、現代コミュニケーション学科においては、人間理解と国際的視野に立って高い教養と専門的な知識技術を習得させ、社会の各分野で活躍できる人材の育成を目指す。

〈前橋育英高等学校〉

◎目指す学校

生徒一人一人の主体的な学びをサポートし、『夢ありてこそ』を教育方針とする

広い視野と高い志、道義心と行動力を兼ね備えた人間性豊かな人材を育成し、生徒一人ひとりの個性を尊重し能力を引き出し高めることで、将来どのような社会でも生きていける力を育てる、活力のある魅力あふれる高等学校

◎教育活動の目標「品格 (Morality) と教養 (Intelligence)」

自己の独立を高めるための、基礎基本となる確かな学力 (教養) の習得に努める。

社会に適応し他者を思いやるために規律を重んじ、規範意識 (品格) を高める。

- ①高い志とやり抜く力を支援
- ②部活動と課外活動の振興
- ③社会的自立心の育成
- ④保護者・地域との良好な関係

3. 学園の沿革

| | | |
|-------|-----|--|
| 昭和37年 | 12月 | 前橋育英高等学校（全日制普通科）認可（昭和37年12月22日） |
| 昭和38年 | 4月 | 前橋育英高等学校（前橋市朝日が丘町13番地）開校 （昭和38年4月12日） 全日制課程（男子普通高校） |
| 昭和43年 | 4月 | 前橋育英高等学校 工芸科（定時制）設置認可 |
| 昭和45年 | 1月 | 各種学校前橋保育専門学校（幼稚園教員養成機関）指定認可 |
| 昭和45年 | 4月 | 各種学校前橋保育専門学校 開校（昭和45年4月23日） 前橋育英高等学校 全日制課程 保育科（女子）設置 |
| 昭和46年 | 3月 | 前橋育英高等学校 工芸科（定時制）募集停止 |
| 昭和48年 | 2月 | 前橋保育専門学校（保母養成機関）指定認可 |
| 昭和50年 | 3月 | 前橋保育専門学校認可（指定期間の定めのない教員養成機関） |
| 昭和52年 | 1月 | 前橋育英学園短期大学 保育学科設置認可 |
| 昭和52年 | 4月 | 前橋育英学園短期大学 保育学科開学（昭和52年4月12日） |
| 昭和53年 | 3月 | 前橋保育専門学校廃止 |
| 昭和58年 | 1月 | 前橋育英学園短期大学 英語科設置認可 |
| 昭和58年 | 3月 | 前橋育英高等学校 英語科（女子）設置認可 |
| 昭和58年 | 4月 | 前橋育英学園短期大学 英語科設置 |
| 昭和59年 | 4月 | 前橋育英高等学校 体育科（男子）設置（普通科体育コース転換） |
| 昭和62年 | 4月 | 短期大学の名称を育英短期大学に変更 短期大学の位置変更 （前橋市朝日が丘町13番地 → 高崎市京目町1656番地1） |
| 昭和63年 | 2月 | 学校法人の名称を群馬育英学園に変更 学校法人の位置変更 （前橋市朝日が丘町13番地 → 高崎市京目町1656番地1） |
| 平成11年 | 3月 | 前橋育英高等学校 英語科 募集停止 |
| 平成13年 | 8月 | 育英短期大学 現代コミュニケーション学科 設置認可 |
| 平成14年 | 2月 | 育英短期大学 専攻科 設置認可 前橋育英高等学校 英語科 廃止 |
| 平成14年 | 4月 | 育英短期大学 現代コミュニケーション学科 設置 育英短期大学 専攻科 設置 |
| 平成15年 | 5月 | 育英短期大学 英語科 廃止 |
| 平成17年 | 3月 | 育英短期大学 専攻科 募集停止 |
| 平成18年 | 3月 | 育英短期大学 専攻科 廃止 |
| 平成21年 | 3月 | 前橋育英高等学校 体育科 募集停止 |
| 平成21年 | 3月 | 育英短期大学 保育学科 専攻廃止（保育専攻、幼児教育専攻） |
| 平成21年 | 4月 | 前橋育英高等学校 普通科スポーツ科学コース 設置 |
| 平成23年 | 11月 | 前橋育英高等学校 体育科 廃止 |
| 平成29年 | 8月 | 育英大学 教育学部教育学科 設置認可 |
| 平成30年 | 4月 | 育英大学 教育学部教育学科 児童教育専攻・スポーツ教育専攻 開学 |
| 令和4年 | 3月 | 前橋育英高等学校 保育科 募集停止 |
| 令和4年 | 4月 | 前橋育英高等学校 普通科保育コース 設置 |

4. 設置する学校・学部・学科等

| 設置する学校 | 学 科 等 | | 開校年月 | 収容定員 |
|--------------------------------|---------------|----------|---------|--------|
| 育 英 大 学 (高崎市京目町1656番地1) | 教育学部 | 児童教育専攻 | 平成30年4月 | 400名 |
| | 教育学部 | スポーツ教育専攻 | | |
| 育 英 短 期 大 学 (高崎市京目町1656番地1) | 保育学科 | | 昭和52年4月 | 680名 |
| | 現代コミュニケーション学科 | | 平成14年4月 | |
| 前橋育英高等学校 (前橋市朝日が丘町13番地) | 普通科 | | 昭和38年4月 | 1,530名 |
| | 保育科 | | 昭和45年4月 | |

() 所在地

5. 設置する学校・学科等の入学者の状況

〈育英大学〉

(令和3年5月1日現在)

| 学 科・専 攻 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| 教 育 学 部 | (入学定員) | (100) | (100) | (100) |
| | 入学者数 | 94 | 123 | 111 |
| 合 計 | (入学定員) | (100) | (100) | (100) |
| | 入学者数 | 94 | 123 | 111 |

〈育英短期大学〉

(令和3年5月1日現在)

| 学 科・専 攻 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------------|--------|-------|-------|-------|
| 保 育 学 科 | (入学定員) | (240) | (240) | (240) |
| | 入学者数 | 233 | 195 | 218 |
| 現代コミュニケーション学 科 | (入学定員) | (100) | (100) | (100) |
| | 入学者数 | 89 | 83 | 91 |
| 合 計 | (入学定員) | (340) | (340) | (340) |
| | 入学者数 | 322 | 278 | 309 |

〈前橋育英高等学校〉

(令和3年5月1日現在)

| 学 科 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------|--------|-------|-------|-------|
| 普 通 科 | (入学定員) | (440) | (440) | (440) |
| | 入学者数 | 498 | 501 | 414 |
| 保 育 科 | (入学定員) | (70) | (70) | (70) |
| | 入学者数 | 68 | 57 | 67 |
| 合 計 | (入学定員) | (510) | (510) | (510) |
| | 入学者数 | 566 | 558 | 481 |

6. 設置する学校の進路状況

〈育英大学〉

(令和4年3月31日現在)

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------------------------------|-----------|-------|-------|-------|
| 教育学部 教育学科 児童教育 専攻 | 卒業者数 | — | — | 27 |
| | 就職・進学希望者数 | — | — | 27 |
| | 進路決定者数 | — | — | 27 |
| | 就職内定者数 | — | — | 25 |
| | 進学内定者数 | — | — | 2 |
| | 進路内定率(%) | — | — | 100.0 |
| 教育学部 教育学科 スポーツ教育 専攻 | 卒業者数 | — | — | 33 |
| | 就職・進学希望者数 | — | — | 33 |
| | 進路決定者数 | — | — | 33 |
| | 就職内定者数 | — | — | 29 |
| | 進学内定者数 | — | — | 4 |
| | 進路内定率(%) | — | — | 100.0 |
| 合 計 | 卒業者数 | — | — | 60 |
| | 就職・進学希望者数 | — | — | 60 |
| | 進路決定者数 | — | — | 60 |
| | 就職内定者数 | — | — | 54 |
| | 進学内定者数 | — | — | 6 |
| | 進路内定率(%) | — | — | 100.0 |

(小数点以下切り捨て)

〈育英短期大学〉

(令和4年3月31日現在)

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------------|-----------|-------|-------|-------|
| 保育学科 | 卒業者数 | 226 | 224 | 186 |
| | 就職・進学希望者数 | 217 | 214 | 178 |
| | 進路決定者数 | 217 | 214 | 178 |
| | 就職内定者数 | 214 | 211 | 175 |
| | 進学内定者数 | 3 | 3 | 3 |
| | 進路内定率(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 現代コミュニ ケーション学科 | 卒業者数 | 91 | 74 | 73 |
| | 就職・進学希望者数 | 84 | 63 | 71 |
| | 進路決定者数 | 84 | 63 | 71 |
| | 就職内定者数 | 83 | 61 | 63 |
| | 進学内定者数 | 1 | 2 | 8 |
| | 進路内定率(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 合 計 | 卒業者数 | 317 | 298 | 259 |
| | 就職・進学希望者数 | 300 | 277 | 249 |
| | 進路決定者数 | 300 | 277 | 249 |
| | 就職内定者数 | 296 | 272 | 238 |
| | 進学内定者数 | 4 | 5 | 11 |
| | 進路内定率(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

(小数点以下切り捨て)

〈前橋育英高等学校〉

(令和4年3月31日現在)

| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 普通科 | 卒業生数 | 482 | 473 | 474 |
| | 国公立大学 | 34 | 38 | 36 |
| | 私立大学 | 247 | 245 | 262 |
| | 国公立短大 | 0 | 0 | 0 |
| | 私立短大 | 32 | 28 | 29 |
| | 専門学校 | 81 | 97 | 110 |
| | 就職 | 28 | 23 | 15 |
| | その他 | 60 | 42 | 22 |
| 保育科 | 卒業生数 | 97 | 91 | 63 |
| | 国公立大学 | 0 | 0 | 0 |
| | 私立大学 | 8 | 6 | 10 |
| | 国公立短大 | 0 | 0 | 0 |
| | 私立短大 | 69 | 75 | 35 |
| | 専門学校 | 11 | 5 | 13 |
| | 就職 | 8 | 4 | 1 |
| | その他 | 1 | 1 | 4 |
| 合計 | 卒業生数 | 579 | 564 | 537 |
| | 国公立大学 | 34 | 38 | 36 |
| | 私立大学 | 255 | 251 | 272 |
| | 国公立短大 | 0 | 0 | 0 |
| | 私立短大 | 101 | 103 | 64 |
| | 専門学校 | 92 | 102 | 123 |
| | 就職 | 36 | 27 | 16 |
| | その他 | 61 | 43 | 26 |

7. 役員(理事・監事)の概要

(令和3年4月1日現在)

| 職名 | 選出条項 | 氏名 | 主な現職 |
|---------------------|---------------------|---------------------|-----------------------------|
| 理事 (11人 ~12人) | 設立者又は縁故者 (1人~2人) | 中村 有三 | 群馬育英学園学園長・群馬英数学館学園長・中村学園学園長 |
| | | ○中村 義寛 | 理事長 |
| | 設置する学校の長 (2人) | ○石井 學 | 育英大学・育英短期大学学長 |
| | | ○金子 雅人 | 前橋育英高等学校校長 |
| | 評議員の選出 (5人) | 高山 昇 | |
| | | 佐伯 詔一 | 民間企業役員 |
| | | ○岩川 正典 | 法人本部長 |
| | | ○泉水 清志 | 短大現代コミュニケーション学科長・教授 |
| | 学識経験者 (3人) | ○山田 耕介 | 前橋育英高等学校学監 |
| | | 小野澤正喜 | 育英短期大学特任教授 |
| 福島 英人 | | 民間企業役員、前橋育英高等学校後援会長 | |
| 監事 (2人) | (2人) | 前田 宏 | 民間企業役員 |
| | | 代田 恭之 | |
| | | 富岡 政明 | 県社会保険労務士会会長 |

○は常勤

8. 評議員の概要

(令和3年4月1日現在)

| 職名 | 選出条項 | 氏名 |
|----------------------|---|---|
| 評議員 (23人 ~25人) | 学園長(1) | 中村 有三 |
| | 法人職員 (9人~10人) | 石井 學、金子 雅人、岩川 正典、新井 保幸、 泉水 清志、山田 耕介、神山 義幸、岡田 紳哉、 武田 雅彦、久住 洋 |
| | 設置校の卒業生 (2人) | 新井 信雄 根岸美智代 |
| 学識経験者 (11人~12人) | 高山 昇、佐伯 詔一、関根 映一、中島 篤、 北條 哲成、遠山 浩二、石井 晃英、大塚智枝子、 石井 昌代、高月有記恵、亦野 高裕、北原 崇夫 | |

※本学園は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、当該保険契約により職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって負担することになる損害を補填することとしております。ただし、故意または重過失に起因する損害は当該保険契約により補填されません。すべての被保険者(役員)について、その保険料を全額学園が負担しております。

9. 職員の概要

(令和3年5月1日現在)

| | 本部 | 大学 | 短大 | 高校 | 計 |
|--------|---------|---------|-----|---------|---------|
| 教育職員 | 0人 | 19人 | 29人 | 77人 | 125人 |
| 事務職員 | 7人 | 38人 | | 14人 | 59人 |
| その他職員 | 0人 | 2人 | | 1人 | 3人 |
| 合計 | 7人 | 88人 | | 92人 | 187人 |
| (平均年齢) | (57.5歳) | (51.3歳) | | (43.2歳) | (47.3歳) |

Ⅱ 令和3年度 事業報告（主要事項）

〈法人本部〉

1. 中期計画の進捗管理と、次期中期計画の策定

平成30年(2018年)4月に開学した四年制大学（育英大学）が、完成年度を迎えるにあたり、育英短期大学、前橋育英高校とあわせた学園全体の連携を進め、安定した経営体制による永続的な学園運営が行えるよう、第1次中期計画の進捗管理を踏まえ、かつ監事・理事会・評議員会の意見を取り入れて令和4年4月スタートの第2次中期計画の策定を進めてきた。

2. 学校法人のガバナンスの強化・確立

令和2年から施行された改正私学法を踏まえた、改正寄附行為に則り、ガバナンス強化に努め、理事会・評議員会機能の実効性の確保に努めた。第1次中期計画に沿い下記の施策を実行した。

今後、第2次中期計画に沿った施策の着実な実行を図っていく。

- ①大学・短大におけるガバナンスコードの策定を行い、経営体制の方向性を定めた。
- ②経営のガバナンス強化策として、法人本部内の組織改定に取り組み、令和3年4月より法人本部内に総合企画部を設置し、高大接続の方向性検討、監査体制の充実、施設・設備の充実策の企画等に取り組んでいる。今後、学園の方向性の企画・立案組織として、活性化していく。
- ③内部監査室を常設組織として、令和4年4月から総合企画部内に配置した。今後監査機能の充実と不正防止を一層強化していく。
- ④コロナ感染防止対策をとりつつ会議の効率的な開催に努め、理事会は年間で6回、評議員会は4回の開催を行った。理事会・評議員会では、各学校の責任者の出席により運営状況の報告を定例化し、経営課題の開示と早期解決に努めた。

3. 法令順守の確立

監事による理事長および理事へのけん制機能を目的とした監査体制を維持した。

- ①監事監査は、5月21日に決算内容の説明と事業報告を行い、学園の適正な運営と内部管理体制について監査を行った。
- ②内部監査は、大学の強化指定部の状況、および大学・短大の科研費の使用状況について監査を行った。今後は、常設した内部監査室を中心に、学園監事との連携をとりつつ、教学監査を含め監査機能の実効性を高めていく。
- ③労働法制に対応し学内規程の見直しを行い、教職員にとって働きやすい職場環境整備に努めた。

4. その他

(1) 施設、設備の充実

環境問題への対応から、大学の空調設備更新及びLED設備への切り替えを実施した。また、高校の生徒指導の充実のため育誠寮の新設と四誠寮を女子寮化する大規模改修を行った。

(2) 財政基盤の安定化

第2次中期計画と連動した5年間の財務中期計画を策定し、各設置校と予算査定会議を開催するなど予算執行に関しては厳格な管理を行っている。財政基盤の安定化を目標としコスト意識を高めた支出抑制を実施した。

〈育英大学・育英短期大学〉

建学の精神と教育理念・教育目標に則り、社会に有為な人材を育成することに力を注ぐとともに、教育の充実に向けた諸改善を図り、地域の信頼と評価を高めるよう努めた。

また、本学の取組と成果を幅広くアピールし、学生募集活動を展開して教育基盤と財政基盤の充実に努めた。その結果、令和4年度は育英大学では入学定員100名のところ119名及び2年次編入生1名を、育英短期大学では入学定員340名のところ238名の入学生を受け入れた。

1. 教育課程

育英大学では、教育現場における実践力と課題解決能力などの向上を図るため、基礎教育科目の充実と、授業方法にアクティブ・ラーニングやICTの活用を取り入れた。

育英短期大学においても学科教育の見直しを行うとともに、教職科目の充実と授業方法にアクティブ・ラーニングやICTを活用して授業の理解度の向上を図る取組を行った。

また、短大・大学とも新型コロナウイルスへの対応として授業方法に遠隔授業と対面授業を併用した分散授業を取り入れ、学修環境の改善に取り組んだ。

2. 教学マネジメント

①FD・SD研修を教職員全員を対象に2回実施し、教学マネジメントの指針やネット犯罪への対応など教職員の資質向上を図った。

②育英短期大学では学科教育の見直しを図るとともに教育目標達成のための教育課程の編成・実施状況等について改善を図った。

③教育改革に取り組む教員の研究に対して、教育改革推進奨励費として17件の支援を行った。

3. 学生募集活動

新型コロナウイルスの感染対策を強化し、4月からオープンキャンパスを実施し、さらに、高校訪問を5月から計3回実施した。また、昨年度と同様に対応としてSNSやホームページでオンライン相談会を実施した。

募集活動では、ホームページやSNS、各受験情報サイトを活用して様々な情報発信を行った。また、受験生の利便性向上や本学の特色等を発信するため以下を実施した。

①インターネット出願の充実、②地方入学試験の継続実施、③新型コロナウイルスの影響で訪問高校の所在地を群馬県内と埼玉県北部に限定して高校訪問を実施、④オープンキャンパスを大学8回、短大10回（うち、学科別イベント3回）、オンラインで短大3回実施、⑤オンライン相談会を2回実施、⑥進学説明会（高等学校主催116回、受験情報業者主催16回）に参加。

4. 学生支援

(1) 経済的理由により修学が困難な学生に対して国の高等教育修学支援制度から短大94名、大学63名が支援を受けた。

また、国の「学生等の学びを継続するための緊急給付金」制度から1人10万円の支援があり、給付型奨学生以外に対しては学内で募集し短大17名、大学36名が支援を受けた。

そのほか、学内及び学外の各種制度の情報提供や相談に応じた。

- (2) 学業成績優秀者(短大18名、大学14名)に表彰や奨学金を支給した。
- (3) カウンセラー(臨床心理士)による学業や健康、友人関係など様々な悩みについての相談を実施しており、17件の相談があった。
- (4) アルバイト等の収入減を支援するため、全学生に食券(1,500円)を配布した。また、一人暮らしの学生に日用品の支援を行った。
- (5) 「学内ワークスタディ」事業を推進し、次の事業に学生が延べ621名従事した。
 - ①オープンキャンパスのスタッフに延べ410名、②SNS(インスタグラム)を活用した学生からの情報発信に6名、③大学案内等の資料発送業務に147名、④保育求人情報入力業務に2名、⑤障害学生のピアサポーターとして4名、⑥学生駐車場のパトロールスタッフに延べ52名
- (6) 障害や病気に起因する特別な配慮を要する学生8名(知的障害1名、発達障害1名、聴覚障害1名、視覚障害2名、ADHD2名(傾向含む)、病弱1名)に修学支援等の相談活動をするとともに、学生への合理的配慮を教職員に依頼した。

5. 学生への教職・キャリア支援

- ①教員や公務員、一般企業などへの採用試験対策として、一般教養対策講座や教職・教科専門・人物試験対策講座を合わせて135回実施した。
- ②資格取得に向けて各種対策講座を開設し、国家資格の国内旅行業務取扱管理者対策講座に4名が受講した。
- ③上越教育大学と連携協定を締結し、上越教育大学教職大学院へ6名が進学した。
- ④私立の保育園や認定こども園・幼稚園、社会福祉施設などの実習先との関係強化を図りインターンシップや就職先の確保に努めた。
- ⑤インターンシップに、企業等の協力を得て9事業所で延べ20名が就業体験をした。
- ⑥アライアンス企業を含む金融・サービス・医療福祉系企業4社と連携して学内合同の企業説明会・業界勉強会を実施し、就職活動の支援を行った。

6. 関係機関との連携

- ①(株)エムダブルエス日高との連携協力の一環として、学生が高齢者等に対するeスポーツ活用のイベントの企画と運営を担当した。
- ②教育・保育実習の実習先や関係教育委員会との懇談会は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったため、資料による情報提供で連携を図った。

7. 地域との連携

- ①産学官連携事業である「市内私立大学・短期大学連携事例発表会」に学生3グループが参加し、地域との連携を深めた。
- ②新型コロナウイルスの影響でオンデマンドによる公開講座を1回とリカレント講座1回を開催し、大学の教育研究成果を地域社会に還元した。
- ③新型コロナウイルスの影響で毎年実施しているクラブ・サークル(和太鼓・ハワイアン等)による敬老会や夏祭り等の地域イベントへの参加ができなかった。
- ④少年スポーツクラブ等への社会貢献活動を積極的に行った。
- ⑤新型コロナウイルスの影響で群馬県が取り組んでいる教育・保育のキャリアアップ研修等への講師派遣が一定期間できなかった。

8. 高大連携事業の推進

(1) 前橋育英高校との連携

- ①入学後の円滑な授業への接続を図るため、科目等履修生として生徒40名を本学に受け入れた。
- ②体験学習（模擬授業）を、前橋育英高校に出向いて2年生166名が受講した。また、本学内において保育科の1年生67名が受講した。
- ③グラウンド等の施設の相互利用をしている。

(2) 前橋育英高校以外の高校との連携

体験学習（模擬授業）を群馬県内13校、県外3校に出向いて実施した。また、本学内では3校を対象に行い、本学教育等への理解を求める取り組みを行った。

9. 教育環境の整備

学生の学修環境や生活環境の整備を図った。主なものは以下のとおり。

- ①建築構造物の経年劣化に伴う浄化槽の交換、全室への冷暖房設備の設置、全室の照明をLEDに交換。
- ②廊下の階段部分をスロープに改修。
- ③新型コロナウイルスへの対応として、全教室への消毒液の設置、食堂・ラウンジ等へのパーテーションの設置。玄関への検温計の設置。
- ⑤植栽の剪定整備。

〈前橋育英高等学校〉

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、学校行事を含め教育活動に大きな制約を受けた。しかし、令和3年度は感染防止対策に留意しつつ、入学式・卒業式の実施、夏の甲子園・冬のサッカー選手権への出場など、いくつかの重要な学校の教育活動を実施することが出来た。中でも2年生の修学旅行は、IV類が方面を変更したものの、無事実施できたのは特筆すべきことであった。

進学面では、国公立大学合格者が60名となり令和2年度の56名を超えることが出来た。また、過去5年間の平均である54.3名を上回ったが、内容的には難関大学への合格者数が減り、地元の大学への合格者数が増えた。

少子化により県内の15歳（中学3年生）人口が年々減少している中、本校では510名の募集定員に対して7年ぶりにそれを下回る481名の入学生となった。令和4年度においては472名と更に下回ってしまった。

1. 教育活動（特別活動）

教科教育以外の分野において、多様な科・コース・生徒に対応するために以下のような活動を行った。

- ①学力向上のため、土曜特別講義、大学受験特別講義等を実施。（通年）
- ②大学進学を希望する生徒を対象として夏期特別講義を実施。（8月2日～20日）
- ③育英短大から講師を招き、Ⅲ類第2学年で特別講義（連携講義）を実施。（3月7日）
- ④保育科3年間の教育成果の集大成として、保育科発表会（ビデオ収録）を実施。
（12月・1月）

2. 生徒募集活動

受験生・保護者や中学校教員等へのタイムリーで丁寧な情報提供を心がけ、出願者の確保に努めた。

- ①学校案内・オープンキャンパスチラシ・ポスターの作成及び配布によるPR。
（5月～7月）
- ②県内中学校へ電話にて生徒募集に関する説明を実施。（7月）
単願者の確保を図るため、出願期間に合わせて中学校を訪問。（11月・12月）
- ③新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、学校説明会（8月）・入試説明会（10月）・個別入試説明会（11月）を実施。
- ④特別推薦等の優遇制度を説明し、単願での出願促進を図るため、中学校教員・塾講師を本校に招き、入試説明会を開催。（9月10日・17日）
- ⑤インターネット出願を導入して2年目。入学金決済及び手続きサイトも導入し、保護者及び教職員の事務負担を軽減。（12月～3月）

3. クラブ活動の地域連携

コロナ禍により活動が制限される状況ではあったが、各クラブがそれぞれの方法で地域との連携を高める活動を実施した。

- ①陸上競技部：部活動とは別に、生涯活動として日本陸上競技連盟に登録した誰でもが加入できる組織「育英クラブ」での活動を実施。（通年）
- ②硬式野球部：寮生を中心とした地域清掃等のボランティア活動を実施。（通年）
- ③ボランティア部：校内清掃活動などのボランティア活動を実施。（通年）

4. 研修活動

教職員の資質向上・学校力の強化に向け、校内及び校外での研修を実施・活用した。

- ①新任教員による研究授業、中堅教員による公開授業等を実施。(6月)
- ②県私立小・中・高協会主催の初任者・中堅教員研修に教員を派遣。(8月)

5. 施設・設備の整備

今年度実施した主な整備事業は以下のとおり。

- ①育誠寮（男子サッカー部寮）の建設。(8月～3月)
- ②四誠寮の改修工事（男子寮を女子寮に全面改修)。(1月～3月)
- ③サッカーグラウンド人工芝張替え工事（人工芝張替え工事及びゴムチップ流出防止工事)。(12月～1月)
- ④南校舎給水管取替え工事（更新)（老朽化による配管の更新工事)。(7月～8月)